



概念	考え方	近いイメージ(日常生活)
金利	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1%を切ってマイナス金利時代が到来している。</li> <li>・実生活においては、普通預金に100万円を預け入れても、10円程度のインパクトしかない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お金の値段」をあらわす。</li> <li>・金利の低下は、「世界的にお金が売れなくなった」状態と捉えるとイメージしやすい。</li> </ul>
貸出金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「企業への融資」のこと。</li> <li>・銀行最大の商品且つ本業といえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀行を動かす「エンジン」的な位置づけ。</li> </ul>
業務純益	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出金と正比例の関係にある、融資で得た利益。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀行を動かす出力(エンジンのパワー部分)</li> <li>・上空(好調)か低空(不調)かが判る指標。</li> </ul>
手数料収入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振込手数料など、「小口」の手数料。</li> <li>・今後は、コンサル手数料やM&amp;A手数料など、かなり大口の手数料が期待されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジンのパワー不足を補助するターボ的な役割。</li> </ul>
評価益	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時価(その時々の値段)と簿価(帳簿に記入されている値段)の違いによるバロメーター。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かつて1億円で買ったものが3億円で売れば、評価益は2億円となる。</li> </ul>
企業審査(信用格付)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・融資先(貸出先)に年に1回、6種類の債務者区分に分けて、区分毎に貸出金の管理、貸倒引当金を計上する一連の作業のこと。</li> <li>・数年に一度、金融庁査定でそれがしっかりと行えているか確認される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドックを実施し、“要検査”~“良好”などカテゴリによって健康状態を確認すること。</li> </ul>
貸倒引当金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・融資先企業の貸出債権が不履行になる可能性に備えて計上する引当金</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命のための準備。</li> </ul>
事業性評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の商品・サービスが売れる仕組み等を銀行担当者と掘り下げて理解すること。</li> <li>・一方的ではなく銀行担当者との対話による理解が大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手との面談。</li> </ul>

※イメージはあくまでも、不慣れな方にポイントを掴んでいただく例ですので、正しい理解には本体レジュメや参考資料、書籍などを参照ください。